

O-1 石巻市雄勝町大浜地区 2011年11月20日(日)

報告者名	星 洋和	被調査者生年	1978年(男)
調査者名	橋本 裕之	被調査者属性	葉山神社宮司
補助調査者	星 洋和		

被災した際の状況

地震発生時は神社の裏で作業をしていた。自身も消防団の一員だったので、津波に備えて、水門を閉めに向かった。神社が避難所になるので、その準備を始めた。波の上がる様子を見ていたが、明らかに今まで見た早さとは違っていた。神社にいた母と息子と一緒に家の裏に逃げ込んだ。嫁は、(嫁の)祖父の葬式のために大街道に行っていた。葬式中に津波が来たため、大街道小学校に避難した。嫁が無事だという話を聞いてはいたが、無事に会えたのは、1週間以上後だった。娘は、隣の地区の憩いの家に避難していた。震災当日から、子どもたちは食事ができたが、子どもたちは親に会いたくてしょうがなかったらしい。入ってくる情報は、おおざっぱなもので、娘の捜索に行きたくても、母と息子を置いて捜索に行くこともできなかった。

大浜地区の被災時の状況と、被災後の状況

集落の東側の人たちは、先ず高台にあるコミュニティセンターに避難した。しかし、コミュニティセンター近くにも水が来たため、山伝いにA家に避難し、その後、消防団の主導でB家に避難した。現在大浜で、自宅に住んでいるのは4世帯、立浜の分校跡地にある仮設住宅に20数世帯。仮設住宅に住んでいるのは、大浜とタテ(立浜地区)の2地区の住人。仮設住宅に入れたのは8月に入ってから。当初は7月に入居の予定だったが、水道の都合で8月になった。仮設住宅に住めなかった人は、石巻や仙台に行った。20世帯以上の人が、石巻や仙台にいった。同じ一世帯だったのを、分けて住んでいる人もいる。

春祈禱に関して

現在、8か所の集落を周っている。春祈禱の流れは、まず家の外で太鼓を叩く。獅子舞をしてから、居間に上がって家族と神棚を、獅子頭でパクパクする。現在は、C氏が笛と太鼓を担当。この笛は、神楽の笛とは違う。春祈禱で休むところをヤド(宿)と言う。昔はどここの道中も歩いていたが、今は車で周っている。人数のこともあるので、やるかどうかは分からない。元の生活に戻そうとしているところもあれば、新しくしようとしているところもある。雄勝からの避難者が石巻・仙台にいても、そこに行くことはあり得ないし、向こうから「来て」と言ってくることもない。獅子や笛・太鼓をするための人数もそろえられない。このままだと今後の春祈禱は難しい。しかし、人が少なくても、春祈禱はやりたい。獅子頭が津波で流されたため、山形の業者に、獅子頭の製作費の見積もりを作ってもらった。助成金が下りれば新しい獅子頭を買いたい。獅子頭

を権現と言ひ、3つの権現の内、1つは朝鮮からやってきた皇子が、自身が乗っていた船から作られたとされる。その権現は、テレボクといい、馬みたいな形をした獅子頭である。ちなみに、全地区の獅子頭が流されたわけではない。

オメツキについて

オメツキ（オモイツキ）とは例祭の特別祈禱のことで、日付をずらすことができない。名振地区だけで行われており、各ヤドでやる。内容は、時事ネタを交えながら、イザナギとイザナミが猥談をしたり、木彫りの男根のミニチュアをプレゼントしたり、ジャンケンゲームを面白おかしくやる。毎年来る人もいれば、子宝に恵まれたくて、来る人もいる。参加者の中には、神主の格好をしたくて衣装を神社から借りる人もいる。ただし、その着ている衣装が古くてヨレヨレだったりして、それが余計面白くさせる。

夏行事について

コミュニティセンターの前に、やぐらを立てて盆踊りをする。盆踊りは20年以上前からやっていたが、今回はなし。盆踊りの翌日に灯籠流しが行われる。灯籠は、支柱部分とバラの色紙を各家に渡して作ってもらっていた。16日の夕方に浜に持ってきてもらって、青年部が船を出して防波堤にまで持って置いておく。元々は、各自で自由に船を作っていた。作る船のことをポンブネ（盆船）と言って、色紙で作った船は海に流せないが、ポンブネは海に流せた。しかし、ポンブネを海に流すのも止めようと今年は思っていた。結局、音頭を取る人もいなくなったから、今年はやらなかった。

神社の状況

5月初め（旧4月8日）葉山神社の例祭があったが、来られる人だけでやった。普段は前夜祭もあるが、今年はやらなかった。今年は神楽をする予定だったが、今年は太鼓による打ちならしだけをした。9月26日が本宮の例祭。葉山は関係ない。秋祭は、生活が落ち着いてきた人たちには、来てもらう。

正月までにやることとして、社務所に掛け軸をかける前に獅子頭の準備や隣の集落との境にヘイソクを立てる。また、掛け軸の祈禱やトウボウサク（東方朔）の読み上げなどもしなければならないが、生活がガラッと変わったせいで、行事の準備が難しい。

神社には太鼓はあるが、集落に配る祈禱用の蘇民将来の版木・判子や、獅子頭がない。今度やりそうな地区は、3カ所半。獅子は残っていても、地区が壊滅状態のところもあり、祭をやれないと言われたらできない。そういう地区では、こっそり、一人で祝詞をあげる。